E N A A 研究成果発表会 2017プログラム

(石油開発環境安全センター)

7月12日(水)

開場(受付開始) 9:30

石油開発環境安全センター部門 開会の挨拶 10:00(山田所長)

—H28年度の事業実績と今後の展望—

E-1 <10:15~10:30> 分科会活動

「SEC企画技術部会の活動状況—」

那須 卓(一般財団法人 エンジニアリング協会 石油開発環境安全センター 総務企画部長)

E-2 <10:30~10:45> 受託事業

「平成28年度 メタンハイドレート開発に係る海洋生態系への影響評価のための基礎研究」

野村 和男(一般財団法人 エンジニアリング協会 石油開発環境安全センター 技術調査部長)

E-3 <10:45~11:00> 受託事業

「平成28年度 具体的事例を基にしたCCSの社会的受容性の調査・分析事業」

山口 隆志(一般財団法人 エンジニアリング協会 石油開発環境安全センター 研究主幹)

E-4 <11:00~11:45> 自主事業

「2010年 メキシコ湾暴噴事故について」

久保 智司(石油資源開発株式会社(前石油開発環境安全センター研究主幹))

(昼 休 み)

📖 講演要旨 (石油開発環境安全センター)

E-1「SEC企画技術部会の活動状況」

SEC では、企画技術部会のもとに分科会を設けて自主研究を行っている。まず主要な役割が石油・天然ガス開発に係る「保安の確保と環境の保全」に関する調査研究であることを踏まえ、「大水深開発におけるリスク評価」をテーマとする資源分科会を立ち上げ調査研究活動を実施している。

また、エネルギー・環境に係る新規事業創生の必要性から、賛助会社の要望課題を取り入れ SEC 自主事業の中に賛助会員にとって価値あるテーマを作りこむことを目的とし、METI 等関連官庁や賛助会員からのトピックス紹介によりエネルギーに関する新たなテーマについての意見交換を行う環境・エネルギー分科会も立ち上げ調査研究活動を実施している。

本発表では、SEC 自主研究テーマの取組みについて、これらの分科会活動を通して紹介する。

(15分)

E-2「平成28年度メタンハイドレート開発に係る海洋生態系への影響評価のための基礎研究」

平成13年に発表された「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」の実現のため、官民学共同のコンソーシアムが組織され研究開発が進められている。同計画は最終年度である平成30年度に商業的生産のための技術整備を目標としており、当センターは環境影響評価手法の研究開発の一部を(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) より委託され実施している。

本発表では海洋生態系への影響を予測するための光合成生態系モデルの構築、数値モデルを用いた流体拡散予測など、実施した成果について報告する。

(15分)

(出所：JOGMEC)

E-3「平成28年度 具体的事例を基にしたCCSの社会的受容性の調査・分析事業」

日本CCS調査(株)(以下「JCCS」)が経済産業省と環境省から受託した、平成26～27年度(一部平成28年度分を含む)の二酸化炭素貯留適地調査事業を通じて行われた地元交渉の結果について第三者の立場からの再評価を検討したもので、CCS事業の初動となる適地調査事業における最も重要なステークホルダーとなる漁業関係者に焦点を当て、CCS事業の社会的受容性向上に向けた諸課題を整理した。

(15分)

(出所：日本CCS調査(株))

E-4「2010年 メキシコ湾暴噴事故について」

2010年4月20日午後9時50分頃、メキシコ湾Macondo試掘井にて仮廃坑作業を行っていたTransocean社のDeepwater Horizon海洋掘削リグ(オペレーターはBP)で暴噴が発生した。リグはその後2回の爆発を伴い炎上、11名の命を奪い4月22日沈没した。海底面より掘削された坑井はその後Capping Stackで封鎖されるまで、暴噴後87日間にわたり油ガスをメキシコ湾に吐き出し続けた。この事故について、関連する報告書等を参考にしてまとめたので報告する。

(45分)